

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-110	A-11C	16-049	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)			
<p>Does physical activity moderate the association between alcohol drinking and all-cause, cancer and cardiovascular diseases mortality? A pooled analysis of eight British population cohorts.</p> <p>身体活動はアルコール摂取と総死亡・がん死亡・心血管疾患死亡リスクとの関連を抑えるか？8つのイギリスコホート研究の統合分析</p>			
執筆者			
Perreault K, Bauman A, Johnson N, Britton A, Rangul V, Stamatakis E.			
掲載誌			
Br J Sports Med. 2016 Aug 31. pii: bjsports-2016-096194. doi: 10.1136/bjsports-2016-096194. [Epub ahead of print]			
キーワード			PMID
アルコール摂取、身体活動、死亡危険度			27581162
要 旨			
目的：			
身体活動がアルコール摂取と総死亡・がん死亡・心血管疾患 (CVD)死亡との関連に影響を与えるかどうかを検討した。			
方法：			
イギリスでの8つの前向きコホート研究 (1994, 1998, 1999, 2003, 2004, 2006年の英国健康調査と1998, 2003年のスコットランド健康調査)より、5,735人の死亡を含む40歳以上の男女36,370人に対して35,3049人年の追跡を行った。アルコール摂取は性別に閾値を設けた以下の6層に分類した。(1) 非飲酒者、(2) 禁酒者、(3) 機会飲酒者、(4) 至適範囲内飲酒者 (女性14 UK units/週未満、男性21 UK units/週未満)、(5) 危険飲酒者 (女性14-35 UK units/週、男性21-49 UK units/週)、(6) 有害飲酒者 (女性35 UK units/週以上、男性49 UK units/週以上)。なお、1 UK unit はアルコール8g相当である。身体活動は7 MET 時間/週以下を不活動、7.5-15 MET 時間/週を推奨レベルより低活動、15 MET 時間/週以上を推奨レベルより高活動と分類した。交絡因子を調整しCox 比例ハザードモデルを用いて、アルコール摂取と総死亡・がん死亡・CVDs 死亡の関連を検討した。また、層別解析にて身体活動群別における死亡リスクを評価した。			
結果：			
非飲酒者と比較し、至適範囲内飲酒以降で、アルコール摂取とがん死亡の直接的関連を認めた (ハザード比 [95%信頼区間]: 至適範囲内飲酒者: 1.36 [1.11-1.65], 危険飲酒者: 1.40 [1.11-1.78], 有害飲酒者: 1.74 [1.27-2.39])。層別解析では、身体活動推奨レベルに合致する群でアルコール摂取と総死亡との関連は減弱し、がん死亡との関連はほぼ消失した。CVD 死亡では身体活動量群別にてアルコール摂取との関連に影響を与えなかった。			
結論：			
現段階で推奨される身体活動を行うことは、アルコール摂取に関連するがん死亡あるいは総死亡リスクを相殺することが示唆された。			